

NEWS LETTER

名古屋市立大学男女共同参画推進センターニュースレター

発行

名古屋市立大学男女共同参画推進センター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL : 052-853-8577
E-MAIL : sankaku@sec.nagoya-cu.ac.jp
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/gender/



Vol.20

名古屋市立大学男女共同参画推進センター長からのメッセージ

男女共同参画推進センターニュースレターは2011年度から発行され、本号で20号となりました。年4回発行していた時期もありますが、最近では、実施した事業を速やかにHPで報告し、当該年度の事業の総括として年度末に1回の発行としています。本学の特徴的な事業として、男女共同参画やダイバーシティに関する学生への教育があります。教養教育で行ったワークライフバランスに関するグループワークでは、ある学生が「答えを見つけることは難しいが、このような話し合いを学生時代にすることが大切」と話してくれました。

さて、2月27日、安倍首相が新型コロナウイルス感染症対策のため3月2日から春休みまで全国の小中高校に臨時休校を要請しました。突然の要請で、家庭や社会への影響は計り知れず、特に低学年の子どもをもつ共働きや一人親世帯の方々は対応に苦慮されています。一方、各企業では、在宅勤務の対象拡大、時差通勤、子連れ出勤の許可など様々な取り組みがなされているようです。ニュースレターが皆様のお手元に届く頃には、感染のピークが過ぎていることを願うばかりです。そして、国難ともいえるこの状況が子育て世代の柔軟な働き方を推進するきっかけになるかもしれないと感じています。



センター長 明石 恵子
(看護学研究科教授・副学長)

令和元年度 男女共同参画セミナー

桜山(川澄)キャンパス

「これからの働き方を考える」

12月9日に男女共同参画セミナーを開催し、学生・教職員あわせて69名の参加がありました。

講師に働き方改革や女性活躍支援のコンサルタントとして活躍中の株式会社オフィスリブラ代表取締役の上松恵子氏(ワーク・ライフ・バランス認定上級コンサルタント)をお迎えし、ご講演いただきました。

職場の中で一人の人に仕事を集中させない、短い時間でも話し合いができる環境を作る、効率的な会議の進め方など、働き方改革について、ご自身のご経験やお考えなどを多岐にわたってお話いただきました。

学生からは「将来働く上で参考になっただけでなく、部活やアルバイト先でも実践したい」、教職員からは「思い当たる節が多々あり、できることから少しずつ行動変容していきたい」などの感想が多く、参加者それぞれが、次の一步に繋ごうとする前向きな姿勢をもつことができ、大変実りあるセミナーを開催することができました。



セミナーの案内チラシ



講師の上松恵子氏



講演会の様子

NEWS LETTER
Vol.20
CONTENTS

P1 センター長からのメッセージ
男女共同参画セミナー

P2 事業報告

- 学生と研究者の懇談会
- ワーク・ライフ・バランス講演会
- 男女共同参画奨励賞表彰式・事例報告会

P3 事業報告(続き)

- 研究支援制度
- 教養教育科目「大学特色科目」の紹介

P4 事業報告・お知らせ

- ランチミーティング
- ランチタイムヨガ
- ワーク・ライフ・バランス相談室
- 保育所の紹介

REPORT 事業報告

令和元年度 学生と研究者の懇談会

滝子(山の畑)キャンパス

「研究者のワーク・ライフ・バランス」

11月11日に、学生と研究者の懇談会を開催し、学生・教員あわせて46名の参加がありました。

講師として、人間文化研究科教授の山田美香先生と看護学研究科准教授の中垣明美先生に、研究者を目指した理由や現在の研究テーマ、家庭との両立についてご講演いただきました。山田先生には育児との両立という観点から、中垣先生には介護・看護との両立という観点から、ワーク・ライフ・バランスについてご自身のご経験やお考えをお話いただきました。

講演終了後、学生との質疑応答などが行われ、研究職の魅力、厳しい状況の中でも仕事を続けてこられた理由、職場の理解など多くの質問が出されました。お2人の講師から、学生たちへのメッセージも込めて丁寧に答えていただき、育児や介護を自らのこととして捉える貴重な機会となりました。



セミナーの案内チラシ



上：講演の様子
下：講師と学生の交流

令和元年度ワーク・ライフ・バランス講演会

桜山(川澄)キャンパス

「『男性が変わること』の大切さ～子育て経験から見るワーク・ライフ・バランス～」

12月18日に、ダイバーシティ推進本部主催、男女共同参画推進センター共催でワーク・ライフ・バランス講演会を開催し、役員・教職員・学生・一般あわせて74名の参加がありました。講師として、名古屋大学大学院法学研究科教授の田村 哲樹氏をお招きしました。

田村先生は、現在、愛知県イクメン・イクボス応援会議の座長として活躍中で、また名古屋大学の男性教員で初めて育児休業を取得した方として知られています。

講演では、在外研究でオーストラリアに留学した時の父子での生活や育児休業を取得した時の子育ての様子、男性が変わることの重要性、家庭と仕事のバランスの取れた生き方など、多岐にわたってお話いただき、受講者は熱心に耳を傾けていました。

講演後は、講師と受講者の間で活発な質疑応答が行われ、大変有意義な機会となりました。



セミナーの案内チラシ



講演の様子

第7回

桜山(川澄)キャンパス

男女共同参画奨励賞表彰式・事例報告会

1月23日に、第7回男女共同参画奨励賞表彰式・事例報告会を開催しました。

本件は、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員、学生、卒業生に対して、学長から表彰を行うもので、今年度で7回目となりました。

受賞者		
研究・教職員部門	研究・学生部門	活動・学生部門
高度医療教育研究センター(救急科)三浦敏靖先生 「男性救急医家庭参加の取り組み～イクメンから見たイクボス～」	経済学部 白杵ゼミ 「男女共同参画社会とアンケート調査に見る特徴」	人文社会学部「社会問題論2」履修生グループ 「ジェンダー・ステレオタイプの克服～多様性を尊重できる社会を目指して～」

今回は3件が受賞となり、受賞後に、各自報告を行いました。先駆的な取り組みや特色のある活動報告に、郡学長も非常に熱心に耳を傾けられ、育ててきた環境だけでなく社会の流れも大きく影響するのではないかと、ご自身の経験にもふれながらお話いただきました。受賞者以外の出席者も含めて、時には笑いを交えながら活発な意見交換が行われ、男女共同参画社会の実現に向けて、より一層理解が深まるとともに、各々の研究・活動の持続的発展が期待される、大変意義のある会となりました。

男女共同参画奨励賞は、本学卒業生も対象となっております。本学及び各同窓会ホームページ、ポスターでもご案内しますので、みなさま奮ってご応募ください。





報告会の案内チラシ



上：報告会の様子
下：受賞者の皆さん

令和元年度 研究支援員制度



育児、介護等により研究時間が限られている女性研究者の研究活動を維持・促進することを目的として、毎年度、女性研究者に研究支援員を配置しています。令和元年度は、女性研究者4名が採択されました。制度をご利用いただいた皆様の声をご紹介します。

<p>看護学研究科 脇本准教授 (平成30年度も採択)</p> <p>研究支援員制度を利用させて頂きありがとうございました。研究は中断することなく進展することができました。支援員は研究知識を修得することができ、幅広い人材育成に繋がると思いました。</p> 	<p>医学研究科 津田助教</p> <p>この度は研究員支援制度を利用させて頂き、ありがとうございました。子供の急な発熱等の場合でも、研究を滞りなく進めることができ、大変有用であったと思います。支援員を含め、協力してくださった多くの方々に感謝しています。</p> 
--	--

令和2年度は、4月から利用者の募集を開始いたします。詳細は本学ホームページ等でご案内いたします。多数のご応募をお待ちしております。

教養教育科目「大学特色科目」の紹介

男女共同参画推進センターでは、学生が社会的性差(ジェンダー)と平等について理解し、考え方や行動に生かすことができるように、平成24年度から教養教育の「大学特色科目」として、前期と後期に1科目ずつ開講しています。

<p>前期「地域社会で活躍する女性」</p> <p> 講義の様子</p> <p>ジェンダーについて総合的な知識、情報を得るとともに、企業や自治体における男女共同参画への取り組みや女性経営者たちの経験を通して、社会における新しい働き方を学ぶ科目です。ジェンダーの固定的役割にとらわれることなく、柔軟な発想と多様性の尊重により、企業や自治体における男女共同参画をふまえた働き方を考える機会となりました。</p>	<p>後期「ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ」</p> <p> 全体討論の様子</p> <p>日本の社会におけるジェンダー(社会的性別役割分業)とワークライフバランスが現実になどなっているのか、名市大の異なる学部や部局から多面的に講義を展開しています。第14-15回目の全体討論では、理系、文系という学問の多様性を超えてジェンダーについて総合的な知見を持ち、理解しながら、学生自から考える望ましい社会についてジェンダーバランスとワークライフバランスの観点からデザインすることを考えました。</p>
--	--

第1回 (4/12)	男女共同参画推進センター長 明石恵子	ガイダンス
第2回 (4/19)	特定非営利活動法人 PROUD LIFE 代表理事 安間優希	ジェンダー論
第3回 (4/26)	株式会社名南経営コンサルティング 人事労務コンサルティング事業部 宮武貴美	企業における女性の活躍
第4回 (5/10)	株式会社エステム 代表取締役社長 塩崎敦子	企業における女性の活躍
第5回 (5/17)	リゾートトラスト株式会社 人事企画部 CSR推進室 吉田幸代	企業における女性の活躍
第6回 (5/24)	中北薬品株式会社 マナーインストラクター部 安田みきよ	企業における女性の活躍
第7回 (5/31)	名古屋市総務局 男女平等参画推進室	名古屋市の男女共同参画
第8回 (6/7)	一般社団法人 中部 SDGs 推進センター 副代表理事 百瀬則子	企業における女性の活躍
第9回 (6/14)	名古屋市総務局 人事課	名古屋市における女性の活躍
第10回 (6/21)	株式会社キャリアビジョン 代表取締役社長 野村恵美子	企業における女性の活躍
第11回 (6/28)	名古屋市立上飯田南保育園 園長 荒木美恵	名古屋市における女性の活躍
第12回 (7/5)	特定非営利活動法人 PROUD LIFE 代表理事 安間優希	セクシャル・マイノリティ
第13回 (7/12)	特定非営利活動法人 参画プラネット 常任理事 重原惇子	男女共同参画
第14回 (7/19)	男女共同参画推進センター長 明石恵子	全体討論
第15回 (7/26)		

第1回 (9/27)	男女共同参画推進センター長 明石恵子	ガイダンス
第2回 (10/4)	システム自然科学研究科 准教授 徳光昭夫	ジェンダーと科学
第3回 (10/11)	芸術工学研究科 教授 鈴木賢一	ユニバーサル・デザイン
第4回 (10/18)	薬学研究科 講師 菊池千草	薬剤師をとりまく 生物学的性差と社会的性差
第5回 (10/25)	看護学研究科 准教授 寺口頭子	就労女性の妊娠・出産・子育て支援
第6回 (11/1)	看護学研究科 教授 堀田法子	子どもの人権と 児童虐待
第7回 (11/8)	病院看護部 看護師長 平原広登	看護の現場における 男性・女性の協働
第8回 (11/15)	臨床研究開発支援センター 臨床研究コーディネーター 志馬景子	職業人と家庭人の両立
第9回 (11/22)	医学研究科 教授 道川誠	医療における ワークライフバランス
第10回 (11/29)	経済学研究科 准教授 木谷名都子	企業とワークライフ バランス
第11回 (12/6)	人間文化研究科 准教授 宮下さおり	職業における ダイバーシティ
第12回 (12/13)		職業と家庭生活の調和 -オランダモデル
第13回 (12/20)	経済学研究科 教授 藤田菜々子	少子化とワーク・ライフ・バランス -1930年代のスウェーデンの経験
第14回 (1/10)	男女共同参画推進センター長 明石恵子	全体討論
第15回 (1/24)		

女性研究者 ランチミーティング

第1回 7月1日 田辺通キャンパス
第2回 9月26日 山の畑キャンパス
第3回 10月10日 桜山キャンパス

研究に関わる女性教員や職員が、昼食をとりながら、研究の醍醐味や、仕事と家庭の両立の工夫などについて経験や思いを共有しました。

同じキャンパスに勤務していても、話す機会はありませんという参加者の間で、新たなネットワークが生まれました。



和やかな会話が弾んだランチミーティング

●ワーク・ライフ・バランス相談室 ●ランチタイム個別相談会

ワーク・ライフ・バランス相談室では、仕事と家庭生活の両立、妊娠・出産・子育て、研究室や職場の人間関係などについての悩みごと、困りごとの相談を受け付けています。

問い合わせ・予約先

☎ 052-853-8577

✉ sankaku@sec.nagoya-cu.ac.jp

開室スケジュールは
こちら
(本学ホームページ)



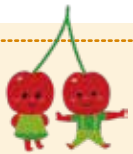
ワーク・ライフ・バランス相談室

ランチタイムヨガ (毎週開催)

お昼休みを利用して、週に1回ヨガ教室を開催しています。

毎回10名を超える参加者があり、体幹トレーニングとストレッチ効果のある様々なポーズを練習しています。

パソコン中心の業務で固まった身体の関節がほぐれて、爽快です。初めての方でも3回繰り返して参加すると、身体が変わります。皆さんの参加をお待ちしています!



さくらんぼ保育所のご紹介

設置目的

男女共同参画、次世代育成支援

どんな保育をしているの?

- 認可保育所と同等の保育面積や保育士数を確保しています。
- 多様な働き方に対応できるよう、延長保育や夜間保育を実施しています。
- そのほか、さくらんぼ保育所には次のような特色があります。

異年齢混合クラス

豊かな人間関係や社会性を育てています。

食育

自園調理はもちろん、園児参加型クッキングも実施しています。

季節行事

プール、運動会など各種実施しています。



最近の取り組み

本学の教職員がより利用しやすく、安心して預けられる保育所となるよう次のような取り組みを行ってきています。

対象年齢の拡大 (平成27年度～)

0～2歳 → 0～小学校就学前

入所定員の増加 (平成29年度～)

65名 → 70名

保育の質の向上 (平成31年度～)

園長の専任化(管理・運営強化)

正規保育士数の増加



節分行事の風景

2020年3月現在、本学の女性教員比率は **22.6%** です。